



九州歯科大学 図書館だより NO.60

新学期が始まって3ヶ月になり、各学年の講義や実習も軌道に乗ってきた頃ですね。皆さん、学修や研究活動に図書館を積極的に活用してください。さて、この「図書館だより」には、図書館収蔵図書「紹介書評」が掲載されていますが、お読みいただいていますか。読書の醍醐味は、全く興味のなかった本をふと読むことによって、新しい世界に出会うということにもあります。この書評を読んで興味を持たれた本、ぜひ一冊、読んでみてください。きっと、新たな地平が開けますよ。

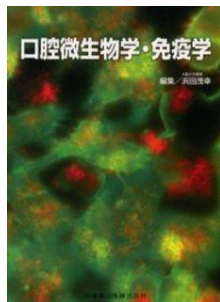
学務部長 赤嶺 勇司



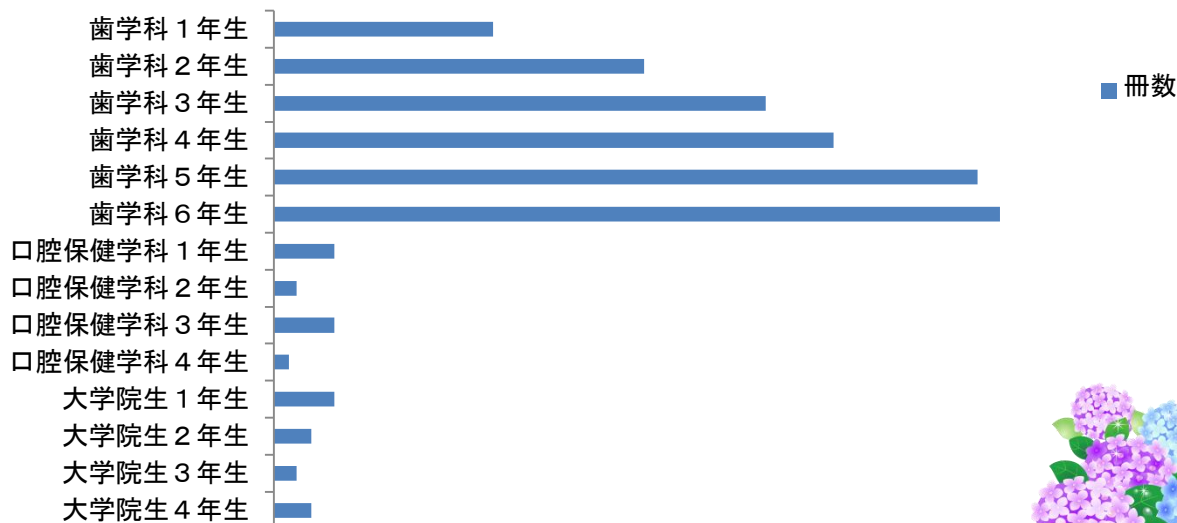
貸出ランキング

2015.5

- 1位 口腔微生物学・免疫学 / 浜田茂幸 [ほか] 編集
- 2位 小児歯科学 / 赤坂守人 [ほか] 編
- 3位 小児歯科学 / 高木裕三, 田村康夫, 井上美津子, 白川哲夫編; 高木裕三 [ほか] 執筆
- 4位 口腔外科学 / 白砂兼光, 古郷幹彦編
- 5位 コンプリートデンチャーテクニック / 細井紀雄 [ほか] 編
- 6位 歯科衛生の動向 / 口腔衛生学会編
- 7位 電気泳動なるほどQ&A: そこが知りたい! / 大藤道衛編集
- 8位 解剖学カラーアトラス / Johannes W. Rohen, 横地千仞, Elke Lütjen-Drecoll共著
- 9位 わかりやすい薬理学 / 安原一, 小口勝司編集
- 10位 口腔外科アトラス / 浅田洸一著



貸出冊数(5月)



本校卒業43期卒業生;七尾与史氏(石川直義先生)の本が
この度図書館に**13冊寄贈**されました。日本テレビドラマ系列『ドS刑事』の原作者でもあり、
処女作『死亡フラグが立ちました!』においても『このミステリーがすごい!』にて注目を浴び、
最終選考まで残ったという実力派作家です。
是非、図書館に来て先輩が執筆された本を読んでみては如何でしょうか?

ドS刑事 桃栗三年柿八年殺人事件
ドS刑事 風が吹けば桶屋が儲かる殺人事件
ドS刑事 朱に交われば赤くなる殺人事件
ドS刑事 三つ子の魂百まで殺人事件

山手線探偵:まわる各駅停車と消えたチワワの謎
まわる各駅停車と消えた初恋の謎
まわる各駅停車と消えた妖精の謎

妄想刑事(デカ) エニグマの執着
沈没ホテルとカオスすぎる仲間たち
殺戮ガール
死亡フラグが立つ前に
失踪トロピカル
バリ3探偵圈内ちゃん



『ナミヤ雑貨店の奇蹟』 東野圭吾 著

現実にはありえない設定で話が過去、未来とすすんでいく。最初は物語の登場人物と同じように当惑したし、
設定の意図がつかめなかった。ファンタジー要素もおもしろいからいれてみようかなあという軽いノリかと思いきや、
そこはさすが東野圭吾! 読み進めていくうちに、設定の理由がわかる。本全体を通して、ナミヤ雑貨店の店主の
やさしさが伝わってくるようで、こちらまでナミヤ雑貨店に迷い込んだ敦也・翔太・幸平のようにこの不思議な雑貨店の
魔法にかかっているようだった。

章ごとに話し手が変わり、話の題材もかわっていく。どの人もナミヤ雑貨店に誰にも言えない悩みごとをもって来る。
悩みをうちあけているようだがどこか腹を割っていなくて完全には信用していない、それぞれにじぶんなりの複雑な心境を
かかえている相談者たちである。予想に反し罵詈雑言のような返信をもらい、最初は反発する。
しかし相手のために思っている言葉は、たとえその時には受け入れることができなくとも心に残り、影響をあたえるもの
だ。誰が書いたのかもわからない手紙のことばを、相談者は自分なりに咀嚼して人生に生かしていく。

実は人が相談を持ちかけるとき、自分のなかにすでに結論があって、
それを応援してほしいという思いがあるのではないだろうか。または何をすべきかわかってはいるのだけれど、
どうも踏み出せない、割り切れないといった思い。

ナミヤ雑貨店は、悪戯半分の質問にも生真面目にむきあう。ただ「聴く」そしてその人の立場に立って考える。
すごくシンプルなことだが、自分が生きることに精一杯で人の話を適当にあしらってしまうことは多い。
このシンプルだが力強い支えがあったからこそ、相談者が、貰った返信を自身の力にかえ、
懸命に生きようと決意していったのだと思う。

そしてこの章の登場人物をつなぐキーとなるのがナミヤ雑貨店と、ある児童養護施設だ。
全く別の人生をおくっている登場人物たちが、少しずつ関わりあっていて、章をまたいで登場するのが話をさらに奥行の
あるものになっている。また相談に応える側も、相談者の存在によって成長し、生きがいを感じていた。
救っているはずが救われていたのだ。

人は一人では生きていけない。人との関わりあいの中で自分の存在を確かめ、
他人によって自分とはどういう人間か理解していく。

この本をよむと、ナミヤ雑貨店のような奇蹟を信じたくなる。人を思う気持ちが連鎖し、奇蹟をおこす。
科学の進歩によって徐々に希薄になったと言われる、人とのつながりだが、一番大切なことはずっと変わらなくあり続ける。
自分は不幸だとか、窮地にたたさされていると感じたとき、そっとこの物語を思い出そうと思う。